

令和6年度 都城市立山田中学校「学校評価及び改善計画」

令和6年度								令和5年度				現状分析				次年度に向けての改善策				学校運営協議会の意見		4段階評価
目標	評価項目	生徒評価	保護者評価	職員評価	総合評価	増減	生徒評価	保護者評価	職員評価	総合評価												3
学力の向上	基本的学习習慣	3.3	2.9	3.2	3.1	±0	3.3	2.8	3.2	3.1	○ 基本的な学習習慣については、各教科担任や学級担任の指導が適切に行われている。全体的な評価は昨年度と同等であった。 ○ 授業の工夫については、生徒が約95%、職員が87%とおおむね良好と感じている。 ○ 個に応じた指導に関しては、生徒も教師も約90%が「分かる、できる」手立てがとられていると回答している。 ○ 家庭学習について、約90%の生徒が家庭でICTを活用しながら学習していると答えていた。朝自習や授業での活用が増えているが、家庭学習の課題を工夫するまでは至っていない。 ○ 約85%以上の生徒が将来に向けて夢や希望を持っていると回答しており、約90%の教員も将来に向けてキャリア教育を充実させていると回答している。 ○ 職業講話や職場体験学習、福祉体験など、生徒が目的意識をもって取り組んでいた。	○ 学習習慣および家庭学習の指導の徹底 - 生徒に目標を設定させることで学習意欲を高めさせ、規則正しい学校生活を送るよう指導する。 - 家庭学習の重要性を保護者に理解してもらい、家庭学習のサポート方法を共有するなどの協力体制を築いていく。 ○ わかりやすい授業の工夫、生徒が主役となる授業 - 授業における学習目標を設定し、視覚的な資料の活用や授業内容の確認、振り返り等を行うとともに、生徒が自分の考えや意見を取り入れる授業の工夫を図っていく。 ○ 生徒の実態把握と個に応じた指導 - 各種テストなどの資料を分析し、生徒の実態を把握するとともに、個に応じた指導に役立てていくように努める。 ○ ICTの活用の推進 - 教員が授業改善のための知識やスキルを習得するための研修を充実させるとともに、ICTの活用を積極的に推進する。 ○ キャリア教育の充実 - 教員のキャリア教育に関する知識や指導方法を習得するための研修を充実させ、発達段階に応じた体験活動や職場体験などの機会を増やすことで、生徒の社会性を育んでいく。	○ 秋田の偉人 石川理紀之助翁らが、この地にもたらした「やる気の仕掛け方」や当時学んだ子どもたちが、いかに「学ぶび」に目覚めたのかを、教える側と学ぶ側の双方向から研究する機会があれば、学習意欲に目覚めるヒントが見えてくるのではないかでしょうか。 ○ ICTツールを娛樂やコミュニケーションに利用してしまう、学習に集中できない、効果的な学習方法がわからないなどの課題を抱えている生徒へ、ICTをどのように活用すれば効果的に学習できるのかを生徒自身に考えさせ、教師や保護者は生徒がICTを効果的に活用できるよう、適切な指導やサポートを行う対策が必要だと思います。 ○ 小学校の学習習慣は中学校でも続きますので、小学校との連携及び保護者の方への指導も願います。	3								
	分かりやすいように工夫	3.6	3.0	3.1			3.5	3.0	3.1													
	それぞれにあった教え方	3.4	2.8	3.0			3.5	2.8	2.8													
	メディアの活用等 家庭学習の課題	3.4	2.8	2.6			3.5	2.7	2.6													
	将来に向けた夢や希望	3.4	3.0	3.0			-	-	-													
豊かな心の育成	積極的にあいさつ	3.7	3.3	3.2	3.4	+0.1	3.7	3.2	3.2	3.3	○ ほとんどの生徒が明るく積極的にあいさつができるていると思われる。 ○ 正しい言葉遣いについては、生徒、保護者、職員とも肯定的な回答が90%を超えていた。 ○ メディア使用上のルールやモラルについては、おおむね良好と回答した生徒と職員が95%、保護者は約80%だった。 ○ 相手の気持ちや立場を考えて行動することについては、肯定的な回答が生徒、職員、保護者とも95%以上であった。その反面、人間関係のトラブル等も起こっている現状もある。 ○ 学校の行事や生徒会活動の充実については、95%以上で生徒も教員も保護者も意義のあるものになっていると回答している。特に本年度は、主体的な活動に重点をおいて取り組むことができた。	○ 「あいさつ運動」「ボランティア活動」の活性化 - 機会ある毎に、「あいさつ運動」や「ボランティア活動」等を呼びかけ、さらに活性化するように日々の指導を確実に行う。 ○ メディア使用上のルールやモラルに関する指導の徹底 - SNSの利用方法やネットいじめ防止策など、生徒への情報モラルに関する指導を徹底していくとともに、学校、家庭、生徒が共に守るべき具体的なルールを策定するなど、家庭との連携を図っていく。 ○ 主体的な生徒会活動の推進 - 生徒の主体性を引き出す環境づくりを行い、委員会活動やボランティア活動など、生徒たちの興味や関心に合わせて参加できる多様な活動を行なながら、生徒会活動を活性化していく。 - 地域貢献活動を企画・実行することで地域社会と関わる機会を増やし、生徒たちの社会性や公共心を育んでいく。	○ 情報モラルやメディア使用上のルールの指導は、家庭でのルール作りや使用方法など、保護者を含めた継続的な呼びかけが必要だと思います。学校だけではなく、社会全体の問題だと思います。家庭、地域とより連携していくことが求められると思います。 ○ 民生委員によるあいさつ運動は、生徒たちにとって様々な良い影響をもたらしていると思います。民生委員の方々との直接的なふれあいは、生徒たちが地域の一員としての意識を高め、地域住民との良好な関係を築くきっかけとなり、生徒たちの安全を守ることにもつながりますので、このまま、あいさつ運動は続けてほしいと思います。	3								
	正しい言葉遣い	3.6	3.2	3.4			3.7	3.2	3.2													
	社会並びに行方使用上 ルールやモラル	3.7	3.0	3.5			3.7	3.0	3.0													
	相手の気持ちや立場	3.6	3.1	3.4			3.7	3.1	3.3													
	学校の行事や生徒会活動の充実	3.7	3.5	3.4			-	-	-													
体力の向上	正しい姿勢（立腰）	3.0	2.8	3.1	3.1	±0	3.0	2.7	3.2	3.1	○ 正しい姿勢（立腰）については、8割近い生徒がおおむねできていると回答しているが、保護者の肯定的な回答が低かった。 ○ 規則正しい生活については、おおむね良好と回答した生徒が88%に対して保護者は68%と低く、生徒よりも厳しい見方をしている。教員も規則正しい生活ができるよう指導していくという意見がある。 ○ 体力の向上のために約8割近い生徒が、何かに取り組んでいると回答しているが、半数以上の教員は指導が行き届いていないと答えている。 ○ 部活動については、加入するすべての生徒が積極的に取り組むことができている。学校外の社会体育でスポーツをする生徒も増えている。	○ 立腰指導習慣と常時指導 - 姿勢を正すことで集中力や学習意欲を高めることを目的にする「立腰指導」を生徒に理解させ、全職員共通理解のもと、常時指導を行う。 ○ 生活指導と保護者への啓発 - 生徒一人ひとりの課題や状況に合わせた指導を行うことで、生徒の自己肯定感を高め、主体的な成長を促していくとともに、学校と家庭が連携し、生徒の状況や課題について情報交換を行う。 ○ 体力の二極化の改善 - 体育の授業において基礎トレーニングを行い、筋力アップ・敏捷性アップにつなげ、授業を工夫し展開することで学習意欲を向上させ、体力の二極化の改善を図る。 ○ 部活動集会やキャブテン会の充実 - 部活動生としての意識、自覚を高めさせ、部活動集会やキャブテン会を通して主体的に運営ができるようにしていく。	○ メディアの進化などによって、外で元気に遊んで汗を流す運動習慣が奪われた気がします。体を動かす爽快さを幼少期から身に着けさせるためにも、小中学校で連携した対策や活動が必要だと思います。 ○ 体力の二極化は大きな課題であり、部活動に入部していない生徒の生活改善を図ることが考えられます。 ○ 少子化により団体競技が難しくなっている。個人競技の部活動を検討してみてはどうか。 ○ 各部活動、とても頑張って活躍して結果を出しているが、	3								
	規則正しい生活	3.4	3.0	2.8			3.4	2.9	2.8													
	体力の向上	3.3	3.1	2.5			3.3	2.9	2.4													
	部活動に積極的	3.7	3.5	3.1			3.6	3.3	2.8													
る地 人域 材に の貢 育献 成す	地域（山田町）に关心	2.9	2.8	2.6	3.0	±0	3.1	2.6	2.8	3.0	○ 地域への关心については、地域行事等も行われるようになつているが、肯定的な回答は増えていない。 ○ ボランティア等については、必要性を感じる生徒は増えている傾向にあるが、部活動等の予定で参加できない現実もある。 ○ 今年度は、12月12日（木）～14日（土）の日程で、中学生9名、引率5名で潟上市から来訪があった。潟上市交流については、地域と連携し無事に終えることができた。 ○ 家庭への情報提供については、保護者、職員とも肯定的な回答が多かった。学校のホームページや学級通信等で家庭への情報提供につながったと思われる。	○ 地域学習の組み入れ - 総合的な学習の時間を中心に地域学習を組み入れ、3年間で系統的に学んでいくように設定していく。 ○ 生徒が主体となったボランティアの実践 - ボランティア活動の目的や意義、活動内容などを理解させ、積極的なボランティア活動を推進していく。 ○ 秋田県潟上市との学校間交流事業の継続 - 本年度は潟上市訪問団14名が山田町を訪問し、生徒や地域の方々と交流を深めた。次年度は潟上市へ訪問する予定である。 ○ ホームページや通信等からの情報発信 - 確実に情報が家庭へ届くように、紙媒体と学校メール、学校のホームページを活用して発信していく。	○ 潟上市交流により、そのつながりを学ぶことで、郷土愛や誇りが育まれることを期待します。また、普段から継続的にオンライン等で生徒会の交流があるといいと思います。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生の地域活動が縮小し、地域社会とのつながりが希薄になっているという状況ですので、公民館行事への参加を促すようしたり、学校行事等に公民館長の参加を案内したり、学校と地域が積極的な連携を取ることで郷土愛に比例してホーム、ブックの充実感が増す	3								
	地域と関わる活動 ボランティア活動等	3.0	2.7	3.0			3.2	2.6	2.6													
	家庭への情報提供	3.4	3.0	3.1			3.6	3.0	2.9													
P T A 活 動	広報活動		3.3	3.7	3.5	+0.1		3.3	3.4	3.4	○ 広報活動については、学校だよりやPTA新聞の発行だけでなく、学校ホームページやメール（シグフィー）の配信も行い、学校の様子や案内文書がより確実に伝わるようにした。今後も充実させていく。 ○ 開かれた学校づくりについては、体育大会、紫峰祭、駅伝・ロードレース大会、フリー参観日などの学校行事に、保護者や民生委員等の地域の方に参加・見学を呼びかけた。そのため、肯定的な回答が95%を超えた。 ○ 家庭と学校の連携については、各種行事への参加や情報公開を行い、連携を深めることができた。また、肯定的な回答が85%を超えた。	○ 学校ホームページと学校メール（シグフィー）による広報活動の推進 - 今年度も学校ホームページへの配信と学校メールによる配信を行った。定期的に発行する学校だより、学級通信、学年通信等と併せて、保護者や地域への広報活動を高めていく。 ○ 地域への学校行事への参加依頼 - 来年度も開かれた学校づくりとして、各種学校行事等に保護者や地域の方々への参加・見学を呼びかけていく。	○ 学校だよりやPTA新聞に比例してホーム、ブックの充実感が増す	4								
	開かれた学校づくり		3.5	3.7				3.4	3.4													
	家庭と学校の連携		3.3	3.7				3.2	3.6													